【小学校・中学校・義務教育学校用】

令４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖北小学校
1　前年度 評価結果の概要	・中間評価をもとに、取組をさらに推進させることで、目標を達成することができたり、目標に近づいたりすることができた。来年度も振り返りを生かして取り組んでいきたい。 ・無理なく進めることでコミュニティー・スクールとしての取組が軌道に乗っている。学校運営協議会とともにどのように発展させていくか熟議していきたい。 ・各項目での目標や取組の浸透がさらに図られる必要があると感じられた。学校評価の目標を意識させるための取組も考えていきたい。
2　学校教育目標	豊かな心を持ち、個性に富み、たくましく生きる児童の育成
3　本年度の重点目標	**①子どもの心を鍛える。　②子どもの学びを鍛える。　③子どもの体を鍛える。** **④教師力を磨く。　⑤共に育てる。**

4　重点取組内容・成果指標　／　**中間評価**　／　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・コロナ禍による学習形態の制限がある中、学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標の達成（教師80%以上）に近づいている。校内研修等により、現状を想定したマイプランを作成し、取組の促進を図っていきたい。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告した教師は85%。 ・各自が現状を想定したマイプランを作成し、校内研究や校内研修を核とした取組ができた。	A	・学力向上に学校全体で取り組んでいることが、学力学習状況調査の結果に表れている。 ・マイプランの85%達成はすばらしい。	学力向上コーディネーター
	○読書活動の推進	○読書量平均一人 70冊以上（低学年） 60冊以上（中学年） 50冊以上（高学年）	・図書委員会による図書館祭りや各学年のおすすめの本を提示するなど児童への啓発活動を進める。 ・読書週間にファミリー読書を推奨し、読書の習慣化を図る。	B	・1学期末時点で、低・中・高学年それぞれに、目標読書量のほぼ半分に到達している。 ・図書委員会で図書館祭りを計画し、啓発活動をしている。 ・学校評価アンケートで、「読書好きの子どもになるように努力している」と答えた保護者が、60%に満たない値となったことから、読書週間のファミリー読書に力を入れていきたい。	B	・低・中・高学年のそれぞれ、貸し出し目標を超えている。特に、低学年では目標値を大きく超えている。コロナ対策で貸し出しに制限を継続しているので、貸し出し総数は減少傾向にある。 ・11月に図書委員会で「図書祭り」を行い、児童への啓発活動を行った。同時期に、「ファミリー読書」で、保護者への啓発活動も行ったが、アンケートに「読書好きの子どもになるように努力している」と答えた保護者は、52%にとどまった。	B	・先生の「おすすめの1冊」を募集し、紹介してみてはいかがか。 ・人格形成過程での読書は重要であるので保護者への啓発活動を継続してほしい。 ・TVやゲームが蔓延している時代に、ファミリー読書等、習慣づけに努力していることはよい取組である。	図書主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・学級づくりや道徳科の授業づくりに関する情報共有等を行う。 ・友達のよさ見つけの実践を行う。 ・友達を大切にする実践（「くん」や「さん」をつけて友達を大切にする等）を行う。	B	・「友達のよさを知っている」と答えた児童は90%以上であり、よさに目を向ける習慣はつきつつある。また、敬称をつけて友達の名前を呼ぶ習慣も90%以上の児童ができるようになってきている。この状況が続くよう、声かけをしたりよさに目を向けさせたりさせていきたい。	A	・学校評価アンケートの「友達のいいところを知っている」「友達の名前に「くん」や「さん」をつけて呼んでいる」の項目で「あてはまる・だいたいあてはまる」と回答した児童は、どちらも99%以上であった。年間を通して多くの児童が友達のよさに目を向けたり、敬称をつけて友達を大切にしたりすることはできていると考える。 ・年度の後半から月1回の学習会（学級づくり、道徳の授業づくり）を始めたので、今後も情報提供を続けていきたい。	A	・道徳教育の実践を人権教育に生かしてほしい。 ・友達を作ることは大事であるので継続して取り組んでほしい。 ・道徳の授業で、肉や野菜の命をいただいていることや売り場に並んだ肉や野菜がどのように育てられ、食品になるかなど食べ物に関する教育も実施してほしい。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの定義について研修を行い、どのような行為がいじめに当たるのか理解を深める。 ・毎月10日の「鳥栖市いじめ・命を考える日」になかよしアンケートを行い、即日確認するとともに、チームで迅速に対応する。 ・毎週水曜日の「生徒指導打ち合わせ」において、生徒指導次項について情報交換と情報の共有を行い、指導や支援の方法について全職員で共通理解を図る。	A	・いじめについての研修を夏季休業中に行い、いじめはどの学校どの学級でも起こり得ることを職員で確認した。 ・「なかよしアンケート」を毎月行い、いじめの調査した。些細な事象についても状況を確認し、その都度指導することができた。 ・毎週行う生徒指導連絡会では、児童の問題行動について共通理解を図ることができた。	A	・毎月10日のなかよしアンケートでは、12月までの集計で約100件の事案（複数回答）を発見することができた。それぞれに事案について記載された内容を確認し、いじめの早期発見と適切な指導を行うことができた。また、学校評価アンケートの「学校はいじめを続けずに対さない指導を子供たちに行っている」の項目で「あてはまる・だいたいあてはまる」と答えた保護者の割合は約90%であった。 ・毎週1回生徒指導打合せを行い、児童の生活の様子について共通理解を図り、児童へ共通した指導や支援を行うことができた。学校評価アンケート「いじめについて組織的な対応をしている」の項目で「あてはまる・だいたいあてはまる」と答えた職員の割合は100%であった。	A	・「いじめ」の問題は「これで終わり」ということはなく学校全体で取り組んでいる様子に感心する。 ・いじめに対して親も教師も努力されていることはすばらしい。	主幹教諭
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の実施	◎夢や目標の実現に向けて、努力する気持ちがあると答える児童80%以上	・児童が夢や目標をもつことができるような授業実践を行うとともに、実践についての情報を共有する。 ・キャリアパスポートを活用し、活動の見通しとふり返りを一体化して児童に意識させることで、児童が自己の成長に気付けるようにする。	A	・運動会などの学校行事の機会を捉えてキャリアパスポートを活用し、目標を持たせて取り組ませるとともに十分な振り返りを行うことで、多くの児童が主体的に活動できた。90%以上の児童が、「目標に向かってがんばっている」と答えている。 ・夢や目標を大切にする授業実践については、特別活動や道徳の授業を中心に、情報交換を重ねた。	A	・学級間や学年間で協力し、学級活動や児童会活動、学校行事などを通して児童が活躍できる場を多く設けたことで、児童に自信や達成感を味わわせることができた。自己肯定感の高まりが、90%以上の児童が夢や目標に向かって頑張っているという結果に繋がったと考えられる。	A	・子どもが夢や目標をもつことは当然であり、ことあるごとに考えさせることは良いことである。	特別活動主任
●健康・体つくり	❶望ましい生活習慣の形成 ❷望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ❸安全に関する資質・能力の育成	❶早寝早起きをしている児童90%以上を維持する。 ❷朝食の喫食率90%以上を維持する。 ❸防犯ブザー所持率90%以上維持する。	・生活リズムアップ週間を実施し、学校・家庭の両面から、早寝早起きと朝ごはんを食べて登校する習慣を意識させる。 ・防犯ブザー点検を各学級で行い、所持する必要性について声掛けを行う。	B	・朝食、防犯ブザーの所持率に関しては概ね達成できているが、早寝早起きの項目は「だいたいあてはまる」の割合が多くなっているため、徹底できていなかった。早寝早起きの必要性を再度指導する必要があると感じた。	A	・約95%の児童が、朝食を食べているとの回答であった。引き続き学校・家庭の両面から、食の大切さについて働きかけ、朝食の喫食率90%以上を維持していきたい。 ・防犯ブザーの所持率は、「だいたいあてはまる」まで含めるとおよそ90%だった。100%に近づけるよう、継続して呼びかけていきたい。	A	・日々、働きかけていくことが大切だと思う。 ・早寝・早起きの習慣は大人になっても必要であるので、これからも継続した指導をお願いしたい。 ・早く寝る習慣をつけるために、夜更かしをすると脳や体の成長にどんな影響があるかなど指導してほしい。	生徒指導主任 食育指導担当
	○運動習慣の改善や定着化を目指した教育活動	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上	・週に1回以上各学級でレクレーションの日を設定し、運動する機会を増やすようにする。	B	・各クラスでレクレーションは行われているが、熱中症対策もあり、運動する時間は不十分だった。今後涼しくなってから再度外で体を動かす時間を増やすように声かけをしていく。	A	・暑さが和らいだ秋以降、今まで以上に運動場で遊んでいる児童が多くなった。体力を付けるためにも継続して体を動かす機会を設けるように声をかけていく必要があると感じた。	A	・北区スポーツ協会として協力していきたい。 ・運動する場所が限られているので、学校で過ごす時間が大切である。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録により勤務時間の意識化を図る。 ・定時退勤日を設定し確実に実行する。 ・業務の精選を行う。	A	・退勤時刻の30分前には退勤の放送を入れ全員が6:30の退勤時刻を守っている。 ・定時退勤日5:30の退勤時刻は全員守っている。 ・行事内容の精選はかなり進んでいる（運動会午前開催、来賓数の縮小）	A	・6:30の退勤時刻は、すべての職員が守り、習慣化してきた。 ・11月を定時退勤推進月間として17:00退勤を目指して取り組んだ結果、ほとんどの職員が目標時刻を達成することができた。 ・運動会の午前中開催は、種目数を大幅に減らすことなく、実施することができた。行事内容の精選が進んでいる。	A	・先生方の健康を子どもたちも願っていると思う。 ・教職員にも心身ともにリフレッシュできる機会、時間を多く取っていただきたい。 ・投げる、跳ぶ、走るなど基本的な体の使い方ができない子が多いので体の使い方を学べる運動を取り入れてほしい。	教頭
	○ICT機器の活用	○ICT機器を授業や業務に活用できている職員の割合80%以上	・各種業務の文書のデータベースをつくり、活用できるように整備する。 ・ICT機器（PC、タブレット）を授業や業務に効率的に活用する。	A	・各校務分掌、学年事務・行事等はデータベース化されている。 ・ICT機器の活用について、全職員がタブレットを使いこなすことができるよう定期的な研修の必要性を感じる。	A	・校務分掌等の資料について、これまでのデータを活用し、効率よく作成している。 ・コロナウイルス感染症による学級閉鎖を見据えて、ミートによるリモート授業に取り組み、タブレットの使用が広まっている。	A	・効果的にICT機器を活用していることが分かった。 ・最先端の教育技術で大変だろうが先生には頑張ってほしい。 ・今後ICT活用は更に求められる。引き続き取り組んでいただきたい。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・教科「日本語」の実践内容について、学年通信で学期に1回紹介する。 ・児童の取り組みや感想等を、学級通信等で学期に1回以上伝える。	B	・取り組みや感想を通信で伝えていると答えている職員が7割程度であり、保護者も同様に捉えていることから教科「日本語」について発信することができていないと考える。学年通信や学級通信で紹介する機会を持つように職員に呼びかけをしていく。	B	・職員も保護者も取り組みを伝えられていないと感じている割合が2割程度あることから、発信が不十分だったと考える。引き続き、職員に発信していくように促していきたい。	B	・「日本語」は大切な教科の一つであり、授業公開を多くするとよい。 ・日本語の美しさを伝えてほしい。	教科「日本語」主任
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性や意識が向上した教員85%以上	・障害理解や通常学級での特別支援に関する研修会を行い、専門性の向上を図る。 ・保護者と合意形成のもと個別の教育支援計画を作成し、合理的配慮を実施する。 ・個のニーズに応じた交流及び共同教育の実践を行う。	A	・1学期に2本の全職員対象の研修、3本の特別支援学級対象の研修会を実施した。 ・個別の教育支援計画と指導計画作成対象者の見直しを実施し、100%作成済。	A	・職員が特性に対する配慮をしながら学校生活の中で個の対応を進めていく意識が高まっている。 ・通常学級に在籍する児童の個別の教育支援計画を作成継続するかの判断基準については、校内での共通理解を進めていく。	A	・支援会議等で共通理解を図り、将来を見据えたキャリア教育を進めてほしい。 ・支援学級児童への指導体制が整っている。	特別支援コーディネーター
○学習への意欲の充実	○学習活動における人権意識の向上	○授業において、児童による意思表明と、それに対する同意や称賛の割合50%以上	・学習活動において、指名やグループ発表などを通して、児童の意思を表明している機会を確保する。 ・児童同士が意思表明や同意、称賛などを行うことを通して、自己肯定感や自尊心を高める機会を設ける。	A	・校内研究のテーマを意識した授業を行っている教員が9割を超えており、互いに関わり合い、互いの良さを認め合う場の設定がなされている。これからも、研究授業における授業力向を中心に、互いの良さを認め合う活動を積極的に設け、児童だけでなく、職員の人権意識を高める風土づくり引き続き行っていく。	A	・ほとんどの教員が校内研のテーマを意識した授業を行うことができており、授業の中で互いの良さを認め合う事ができていると考えられる。また、一人一本の研究授業を行うことで指導力の底上げもなされている。	A	・継続して実りある研究にしてほしい。 ・人権問題は大人になっても大切なので継続して研究に取り組んでほしい。	研究主任 人権同和教育担当

●・・・県共通　★・・・鳥栖市共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・中間評価をもとに、取組をさらに推進させることで、目標に近づくことができた。来年度も振り返りを生かして取り組んでいきたい。 ・教科「日本語」やコミュニティ・スクールの取組の取組の広報活動が不十分であることが分かった。学校だよりや学校ホームページ、マチコミを使って取組を広く知らせていきたい。 ・コミュニティー・スクールとしての取組が軌道に乗ってきている。学校運営協議会とともに様々な行事を企画し、実施していきたい。